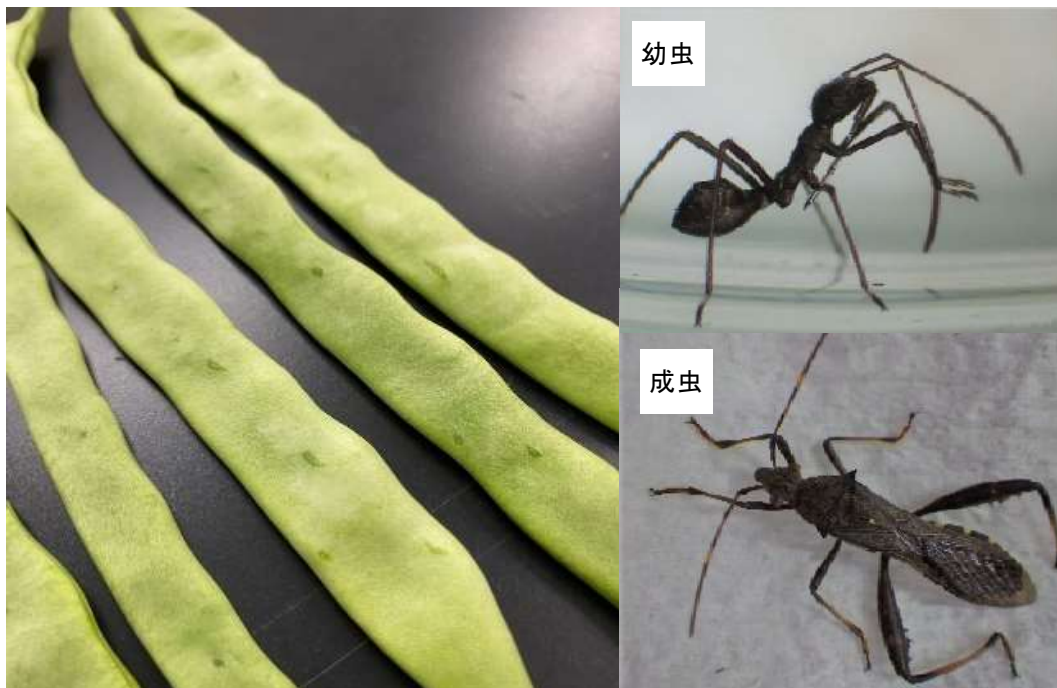


菜豆のホソヘリカメムシ（新寄主）

令和4年8月中旬、後志地方の露地栽培の菜豆（さやいんげん、品種：大平英尺5寸）において、莢を吸汁するアリの酷似した虫が集団で発生した。被害莢は吸汁痕由来の損傷（傷・凹み）により規格外となった。莢内の子実にも吸汁痕が認められ、長い口針を持つカメムシ類による被害によるものと推測された。被害莢の酸性フクシン水溶液処理によりカメムシ類の口針鞘様組織が被害箇所付近に染色された。また、現地で採集された虫は大豆種子で飼育して得た成虫の形態観察によりホソヘリカメムシ *Riptortus pedestris* (Fabricius) と同定された。さらに得られた成虫をさやいんげんの莢に接種したところ、莢を吸汁し現地と類似の被害が再現された。以上から、莢の被害は本種によるものと診断した。本州においては、稲、あわ・きび・ひえ、大豆、いんげんまめ・小豆・ささげ、えんどう・そらまめ、らっかせい、いちご、かんきつ、なし類、かき、マメ科牧草と広範に本種の加害報告があるが、北海道において本種による農作物の加害が確認されたのは初めてである。本種の幼虫はアりに擬態し形態が酷似するが、口針の有無で区別ができる。現地では、えだまめ、いちごで本種に類似する虫の発生も報告されており、今後確認が必要である。有効積算温度による推定では道内で年1化ないしは2化であり、8月中下旬から発生する第2世代幼虫が加害の主体となると推測される。

（中央農試・後志農業改良普及センター北後志支所）



菜豆のホソヘリカメムシ（左：被害莢、右上：幼虫、右下：成虫）

（左：後志農改北後志支所 小林氏 原図、右上：後志農改北後志支所 入澤氏 原図、
右下：中央農試 下間 原図）